>> Vol.04

環境配慮設計の推進

CO゚排出量を削減することを目的として、「省

前回に続いて、日建連の建築分野における 低炭素・循環型社会へ向けての活動をとりあげます。 今月号では、会員会社におけるCO₂排出削減や CASBEEの活用状況・評価実績をご紹介します。



三分の一を占め、

その大部分は建物の運用段階

れています。

CO゚に考慮した建物を構築することが求めら

イフサイクルを視野に入れた省エネルギー

と省

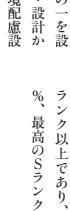
そのため、

建築関係者には、計画設計時にラ

計の推進は重要な課題であると考えています。 ら建物の構築に携わっているため、環境配慮設 計施工一括方式で受注しており、企画・設計か 省エネ計画書CASBEE対応状況 日建連では、その取り組みを定量的に把握し、 日建連会員会社は、工事額の約三分の一を設

省エネルギー量を設計の貢献分と考えています 値)』以上の性能を作り込んだ場合に、その分の 調査」を行っています。 の合理化に関する建築主の判断基準 計画書を基に、 エネルギー計画書およびCASBEE対応状況 さらに、 本調査では、 同建物でCASBEE評価を行 新築時に提出した省エネルギ 省エネ法の『エネルギーの使用 (性能基準

CO₂削減割合 (用途ごと) ■ CO₂排出割合 ■ CO₂削減割合

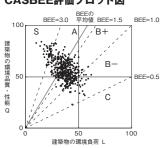


CASBEE評価プロット図

ホテル等

飲食店等 集会所等 工場等

病院等 物販等 事務所等 学校等



場合はその数値も調査して 1

低炭素・循環型社会の構築に貢献

日本全体のCO。排出量のうち建築関連は約

会員会社の取り組み

価の結果をみると、環境性能の高い設計をしてエネ計画書(四八五物件)及びCASBEE評 いることが分かります。 調査対象二三社が二〇一〇年度に提出した省

二三社中二一社が、社内基準を設けて自主的 にCASBEE評価を実施しています。

出を義務付けている自治体も増えています。 BEE(建築環境総合性能評価システム)の提 計画書の届出が義務付けられ、さらにはCAS のものです。また、省エネ法では省エネルギー

省エネ法の「建築主の判断基準」を丁度満足 CASBEE評価については、 の平均値は三三%となり、 する建物と比較すると省エネ率、CO゚削減率 最高のSランクは九%強を占めています 年間約二一万少と推定できます。 Aランクは全体の四八 CO²削減量(運 九四%がB+

用段階)は、